

平成29年6月5日～6月11日までの全国の暑さ指数（WBGT）の観測状況及び熱中症による救急搬送者数と暑さ指数との関係について（平成29年度第6報）【2019年11月修正版】

1. この期間(6月5日～6月11日)の全国の暑さ指数(注1)の観測状況について
この期間の6都市(*)の日最高WBGTの平均値はそれまでの高めの傾向から、おおむね、過去5年間の平均に比べ低い状態に変わりました。

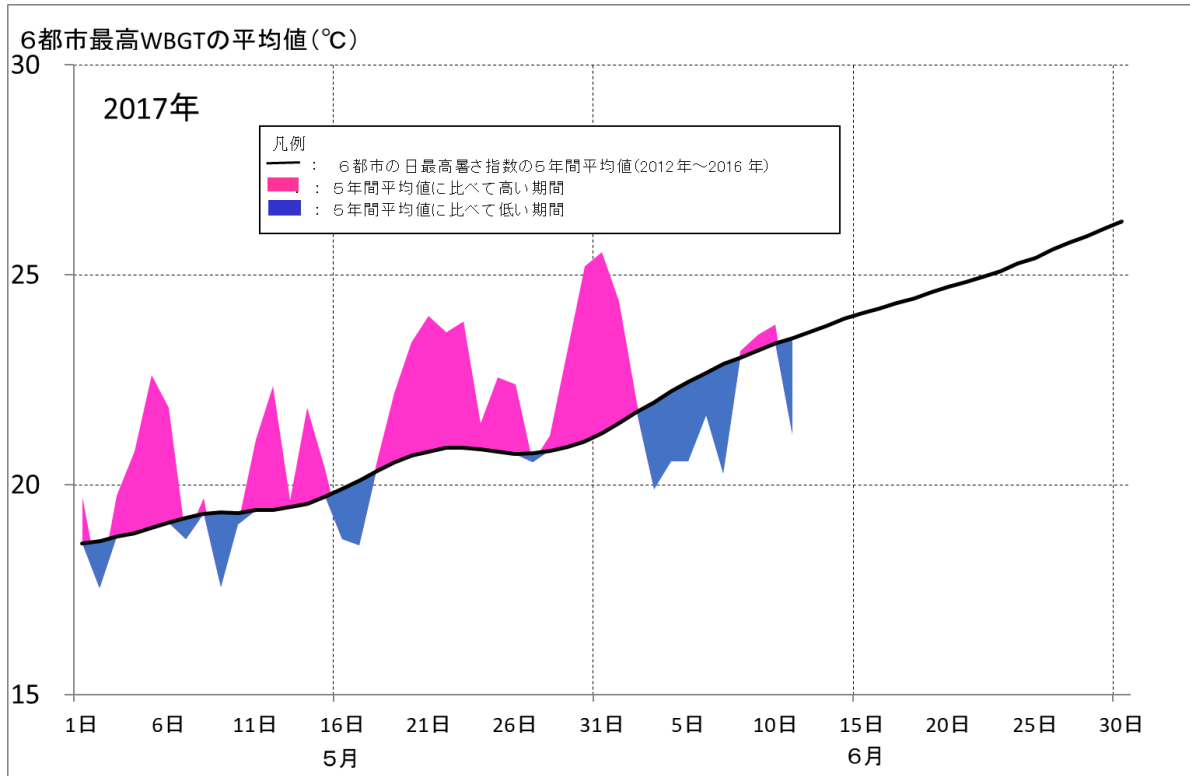


図1-a 全国の暑さの動向の過去5年間の平均との比較

(*) 6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市

表1-a 全国9都市の毎日の最高暑さ指数(6月5日～6月11日)

日	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	福岡	鹿児島	6都市平均
5	15.4	18.4	18.7	20.8	20.3	20.0	20.0	23.6	24.5	20.6
6	18.8	18.3	18.9	21.5	23.6	21.1	22.0	22.8	23.4	21.7
7	17.8	19.3	20.2	21.5	20.0	19.5	18.4	22.0	22.6	20.3
8	18.4	21.3	20.0	24.7	22.0	25.1	23.8	23.5	23.5	23.2
9	20.7	21.4	21.4	24.4	23.2	23.1	23.3	26.1	24.1	23.6
10	14.5	20.5	21.3	25.9	24.4	22.9	22.8	25.6	25.5	23.8
11	17.4	18.5	18.7	22.6	19.3	19.5	21.4	25.6	25.6	21.2

表1-b 全国9都市の1週間(6月5日～6月11日)の暑さ指数超過時間数

超過時間数	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	福岡	鹿児島
31°C以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
28°C以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25°C以上	0	0	0	2	0	1	0	5	2

(注1)9都市の暑さ指数は、環境省の黒球温度観測資料と気象庁の観測資料から推定した値です。暑さ指数については参考資料をご覧ください。

2. 6都市の日最高暑さ指数(WBGT)と熱中症による救急搬送者数(全国)との関係

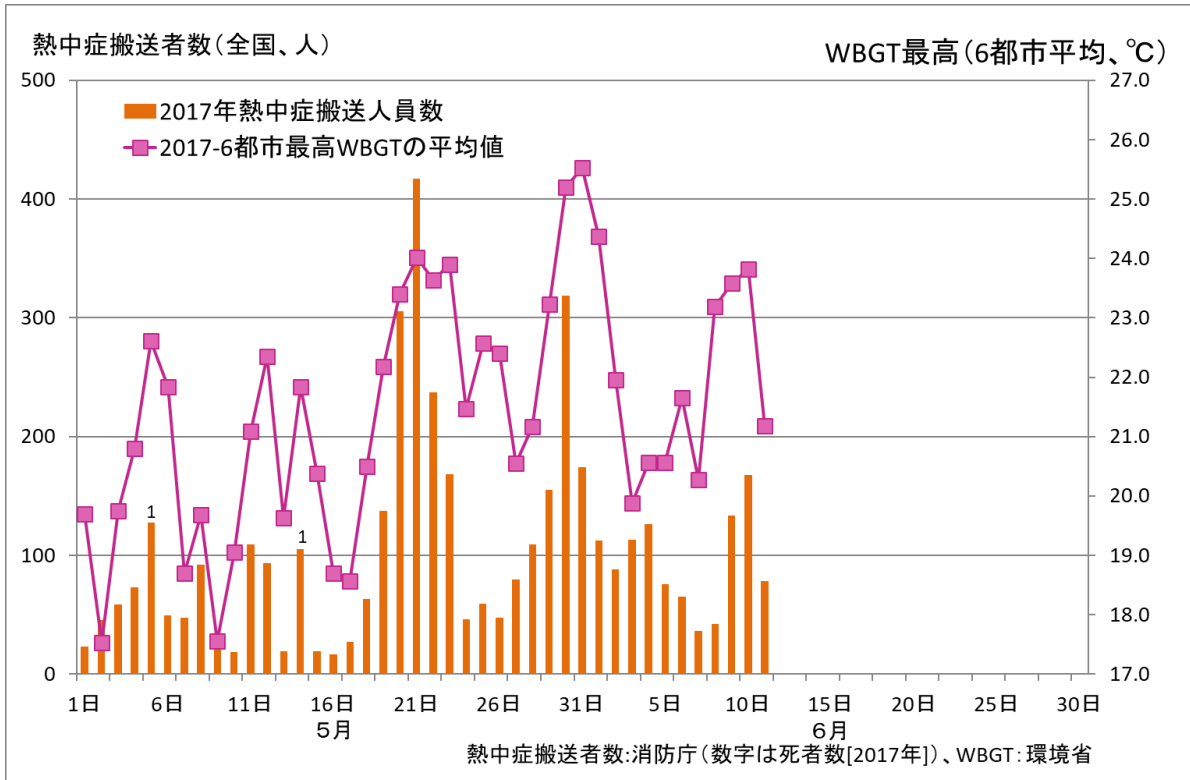


図2-a 6都市の日最高WBGTと熱中症搬送者数の推移

○この期間は10日には東京で26°C弱となるなど一部地域で高くなりましたが、6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、おおむね過去5年の平均値より低く経過しました(図1-a参照)。消防庁発表の速報では、熱中症による救急搬送者数は9日、10日には100人を超えましたが、1週間の搬送者数は先週よりも大幅に少なくなりました。

○全国では、週の後半に関東と西日本で、熱中症危険度の「警戒」を示す25°C以上なった地点がありました。また沖縄県では「危険」とされる31°Cを超えた地点がありました。このように、地域によって、また毎日の気温等の変化によって、暑さ指数(WBGT)も大きく変わるため、晴れた日などは全国的に熱中症に警戒が必要な状況です。

3. 今後の見通しと注意点

○熱中症予防情報サイトによると、明後日(16日)は、関東以西の広い範囲で暑さ指数(WBGT)が25°Cを超え、九州の一部では28°Cを超えると予測されています。さらに、気象庁発表(6月14日11時時点)の週間天気予報によれば、「北日本から西日本にかけては、最高気温は、平年並か平年より高いですが、平年より低い所もあるでしょう。最低気温は、平年より低い所が多く、かなり低い日もある見込みです。沖縄・奄美は、最高気温・最低気温ともに、平年より低いでしょう。」となっています。最高気温は高め、最低気温は低めの傾向ということから、寒暖の変化も大きくなることが予想されます。わずかでも暑くなった際には、引き続き熱中症へ十分に警戒をして下さい。

○広い地域がすでに梅雨入りをしています。これからは湿度が高く、晴れた日には気温も高く、一層蒸し暑くなることが予想されます。天気予報や熱中症予防情報サイトなどを参考に、特に高温となる日には、無理な作業や運動をせず、こまめな水分補給や休息をとるなど、体調管理に注意して下さい。

(参考)

「暑さ指数」について

熱中症を引き起こす条件として「環境」は重要ですが、我が国の夏のように蒸し暑い状態では、気温だけでは暑さは評価できません。熱中症に関連する、気温、湿度、日射・輻射、風の要素を積極的に取り入れた指標として、暑さ指数(WBGT: Wet-bulb Globe Temperature: 湿球黒球温度)があり、特に高温環境の指標として労働や運動時の予防措置に用いられています。

暑さ指数を用いた指針としては、日本体育協会による「熱中症予防運動指針」日本気象学会による「日常生活における熱中症予防指針」があり、暑さ指数に応じて表1-1に示す注意事項が示されています。また、夏期には、全国約840地点の暑さ指数の実況値・実況推定値や予測値が「環境省熱中症予防情報サイト」(<http://www.wbgt.env.go.jp/>)で公開されています。また、市民マラソンにおける指針については、Hughson(カナダ)による指針が提案され、アメリカやカナダで用いられています。

暑さ指数について

● 日常生活に関する指針

温度基準 (WBGT)	注意すべき 生活活動の目安	注意事項
危険 (31°C以上)	すべての生活活動で おこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。 外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
嚴重警戒 (28~31°C※)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25~28°C※)	中等度以上の生活 活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
注意 (25°C未満)	強い生活活動で おこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する 危険性がある。

※ (28~31°C) 及び (25~28°C) については、それぞれ28°C以上31°C未満、25°C以上28°C未満を示します。
日本気象学会「日常生活における熱中症予防指針Ver.3」(2013)より